

国立工芸館 収集の概要（令和6年度）

国立工芸館では、近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能としつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努めている。とりわけ日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心としている。

今年度は特別購入予算により、北大路魯山人晩年の秀作《織部蟹絵丸平向付》と1900年パリ万博出品作である金森宗七《花鳥文様象耳付大花瓶》を購入した。いずれも日本近代工芸史上重要な作品であり、海外流出を防いだという点でもその意義は大きい。また、若手作家の作品は近年の展覧会出品作を重点的に購入したが、これは展示研究の成果が収集へ繋がっていることを示すものである。

その結果、二十代堆朱楊成や稲木東千里といった明治生まれの名匠から中田真裕や佐々木類といった気鋭の若手まで、世代やジェンダーについてもバランスのとれた収蔵を進めることができた。

国立工芸館 美術作品購入一覧（令和6年度）

 = 特別予算購入		
1	種別：陶磁 作者名：北大路魯山人（1883-1959） 作品名：織部蟹絵丸平向付 制作年：1957 材質・形状：陶土、鉄絵 寸法：各h3.3 w15.5 d15.7 解説：口縁部に緑釉を施し、鉄絵で蟹が描かれた皿は魯山人の自由でおおらかな作風をよく表す。同様の作例はいくつか存在するがセットがばらされ市場に出ることが多く、共箱が付属し十客揃った状態は極めて稀。日本画家の加山又造氏旧蔵品。 取得額：52,800,000円 展示予定：計画中	
2	 種別：金工 作者名：金森宗七（1821-1892） 作品名：花鳥文様象耳付大花瓶 制作年：1892年頃 材質・形状：銅 寸法：h74.0 D42.3 解説：高岡銅器を主導した金森によって制作指揮された1900年パリ万博の出品作。明治期の日本の金工技術の高さを示す優品あると同時に、日本が西洋に発信しようとした意匠的特徴が確認できる非常に貴重な資料でもある。 取得額（円）：30,000,000円 展示予定：展示予定（MOMATコレクション：令和7年度）	
3	種別：陶磁 作者名：十四代今泉今右衛門（1962-） 作品名：色絵雪花薄墨墨はじき萩文鉢 制作年：2019 材質・形状：磁器、色絵 寸法：h14.8 D45.7 解説：370年続く窯元に生まれ、2019年に「色絵磁器」で人間国宝に認定された十四代今右衛門。本作は鍋島の伝統技法「墨はじき」を発展させ独自に生み出した「雪花墨はじき」とプラチナ彩により、晩秋の草花が詩的に表現された現代色鍋島の優品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中	
4	種別：陶磁 作者名：ハンス・コパー（1920-1981） 作品名：ポット 制作年：1979 材質・形状：陶器 寸法：h20.6 w8.9 d8.2 解説：ルーシー・リーとともに戦後のイギリス陶芸界に新風を吹き込んだコパー。黒いマット釉と轆轤で成形したパーツの合接による構成など、彫刻的でありながら陶芸の本質を問うべくその表現の可能性を探究した作家最晩年の特徴がよく表れた希少な作品。 取得額（円）：9,350,000円 展示予定：展示予定（ルーシー・リー展：2025年9月9日～11月24日）	

5	種別	陶磁
	作者名	ジョン・メイソン（1927-2019）
	作品名	トライアングルズ
	制作年	1984
	材質・形状	陶器
	寸法	各h82.6 w213.4 d213.4
	解説	戦後アメリカ陶芸の革新を主導したメイソンは、陶による表現を拡張し続けた。本作は複数の大型パーツにより空間を構成し、幾何学的な形態と模様を組み合わせるという独自の展開をみせた作家の1970年代以降の特徴をよく示す作例。
	取得額（円）	20,900,000円
	展示予定	計画中
6	種別	陶磁
	作者名	ジョン・メイソン（1927-2019）
	作品名	Figure, Cobalt Blue
	制作年	2015
	材質・形状	陶器
	寸法	h158.8 w61.0 d62.3
	解説	数点制作されたFigureシリーズの中でも完成度が高い一点。芸術の古典的主题である人体を幾何学的な面で造形し、陶ならではの質感とコバルトブルーの奥行ある陰影がフォルムを引き立てる。晩年まで新しい表現を求めた作家の集大成的作品。
	取得額（円）	14,487,000円
	展示予定	計画中
7	種別	漆工
	作者名	二十代堆朱楊成（1880-1952）
	作品名	八珍果香合
	制作年	1910
	材質・形状	漆、彫漆
	寸法	h0.5 D5.0
	解説	古来より珍重されてきた八種の果実を配した香合。蓋表に柿、李（すもも）、銀杏、橘、身には葡萄、桃、桑を組み合わせ、朱と黄のみだが彫りの鋭さによってモチーフが明快に表現されている。作家の初期の作風がよく表れた貴重な作品。
	取得額（円）	2,530,000円
	展示予定	計画中
8	種別	漆工
	作者名	二十代堆朱楊成（1880-1952）
	作品名	轡虫香合
	制作年	1922
	材質・形状	漆、彫漆
	寸法	h2.0 D6.5
	解説	背景を黄漆、轡虫を主に朱漆で蓋表に表した香合。幾何学文様を展開し、その上に深く彫り上げた轡虫を配する。小品ながら朱、黄、黒の漆層を巧みに使い分け、彫りと塗りの高い技術と意匠の見事さが際立つ一品。
	取得額（円）	2,750,000円
	展示予定	計画中
9	種別	木工
	作者名	中川清司（1942-）
	作品名	榧桎合わせ盆
	制作年	1973
	材質・形状	榧、桎合わせ
	寸法	h4.7 D35.6
	解説	三角形の木片を桎合わせで接合し轆轤で挽き、鉋で削り出した輪花型の盆。桎目が描く放射線が美しく、高度な技術と丁寧な仕上げが光る一品。第二回日本工芸会近畿支部展日本工芸会賞受賞作。
	取得額（円）	-
	展示予定	計画中

10	種別：木工 作者名：中川清司（1942-） 作品名：高野槇 桎合わせ食籠 制作年：1980 材質・形状：高野槇、桎合わせ 寸法：h14.7 D24.5 解説：竹内碧外《梅香合》（1960年、京都国立近代美術館蔵）を参考にして、桎合わせの技法で梅型の蓋物の制作に取り組んだ作品。伝統技術を継承しつつ新たな造形に挑戦する中川の制作の特徴をよく表している。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
11	種別：木工 作者名：中川清司（1942-） 作品名：春日杉木画色紙箱 制作年：1982 材質・形状：春日杉、木画 寸法：h11.3 w26.5 d29.5 解説：杉の赤みのある木目をいかし、長方形の小片を桎合わせで接合し、濃淡の菱形の連続を立涌紋様風に表している。蓋は縁を面取りすることで造形的な落ち着きを見せる。杉の木目による緻密なデザイン構成をよく表す作品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
12	種別：木工 作者名：中川清司（1942-） 作品名：神代杉木画六角箱 制作年：2006 材質・形状：神代杉、木画 寸法：h8.8 w33.0 d29.0 解説：「木工芸」の人間国宝に認定された後の作品。2,000枚以上の木片を継ぎ合わせた寄木によって模様を構成し、優美な桎合わせ紋様を描き出している。桎合わせの技術力の高さと、光の加減で表情を変える洗練された木画の技法がみられる一品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
13	種別：染織 作者名：北村武資（1935-2022） 作品名：羅地金襴「菊煌文」 制作年：2017 材質・形状：絹、羅地金襴 寸法：w72.0 解説：「羅」の技法で人間国宝に認定された北村。本作では菊花を六角形の亀甲と重ねて表している。通常は表のみで処理する平金糸を生地裏に通すことで、羅の薄い生地越しに金糸が輝き、文様外の余白に充実した味わいをもたらす作品。 取得額（円）：3,300,000円 展示予定：計画中
14	種別：染織 作者名：北村武資（1935-2022） 作品名：透文羅「田相文様」 制作年：2020 材質・形状：絹、羅 寸法：w72.0 解説：通常の文羅と疎密を逆転させた「透文羅」は北村が生み出した技法。経緯で色相の離れた黄色と藍色とを用い、明暗が躍動的な織糸の様相を一層引き立てている。晩年まで未知の織を探究した作者の熱意を窺わせる一品。 取得額（円）：4,400,000円 展示予定：計画中

15	種別	： 染織
	作者名	： 北村武資（1935-2022）
	作品名	： 渦流文経錦
	制作年	： 2021
	材質・形状	： 絹、経錦
	寸法	： w72.0
	解説	： 「経錦」の技法でも人間国宝に認定された北村は、技法の制約上小紋を限界とする通念を覆し、大型文様による経錦を創出した。伝統的なモチーフである渦巻く流水を襷状に連続させた斬新な構成で、織色と配列の妙が清らかな魅力を放つ。
	取得額（円）	： 3,300,000円
	展示予定	： 計画中
16	種別	： 金工
	作者名	： 高橋賢悟（1982-）
	作品名	： flower funeral -goat-
	制作年	： 2024
	材質・形状	： アルミニウム、真空加圧鋳造法
	寸法	： h17.0 w29.0 d37.0
	解説	： 元来工業製品用の技術である真空加圧鋳造法を用いて制作する高橋。本作は「生と死」をテーマにしたflower funeralシリーズの一点。小花の集合でヤギの頭蓋骨を象り、緻密な技が繊細かつ荘厳な印象を生み出している。
	取得額（円）	： -
	展示予定	： 計画中
ほか24点／計40点 購入総額：166,272,000円		